

長野県図書館協会

デジタル版 小中学校図書館部会だより

第162号（令和4年度）

第72回長野県図書館大会（飯田下伊那大会）を終えて

県図書館協会小中学校部会下伊那支部長
売木村立売木小中学校 瀧中 浩

1 はじめに

10月29日（土）に第72回長野県図書館大会が飯田市文化会館をメイン会場に、県下4地区サテライト会場で開催されました。各会場の参会者にZoom視聴者を加えた約500名の参加者が『一人ひとりによりそう図書館になろう～読書の意味を再考し、図書館の役割やあり方を考える～』をテーマに熱心に語り合いました。

開会式での尾島教育次長、宮下大会長のあいさつ、佐藤飯田市長からの祝辞に続き、『AI時代を生きるための力～読解力の重要性と読書の意義』と題し、国立情報学研究所社会共有知研究センター長でいらっしゃる新井紀子先生の基調講演を拝聴しました。続いて行われた分科会では、第1分科会と第2分科会に分かれて意見交換を行いました。



2 第2分科会の様子から

第2分科会は飯田文化会館をメイン会場に、「図書館が知ること・学ぶことにどうこたえられるか～ICTとベストミックスを図る図書館の在り方」というテーマで、県下4地区4サテライト会場を結んで話し合いが行われました。今年は、学校関係者のみならず公共図書館の運営に携わる方々も交え、いろいろな立場から意見交換をしていただきました。最初に各学校や図書館の課題や現状を共有した後、事例発表で、松本中央図書館、山本小学校田中先生、鼎中学校井出先生、飯田西中学校牧野先生より、ICTと図書館活用のベストミックスを図った実践について発表していただきました。その後、サテライト会場ごとに意見交換を行い、各サテライト会場をリレー方式で繋ぎ、話し合われた内容を全体で情報共有しました。

参会者の皆様からは、「いろいろな立場の先生方のお話が聞けて勉強になった。」「どの立場からも本を調べることの大切さや思いが聞けました。」「事例発表がとても参考になりました。」等の感想が寄せられました。



3 おわりに

今回の大会に向けて、飯田市教育委員会・飯田市立図書館を中核に実行委員会が組織され、県関係の委員会や部会と連絡を取り合い、ご助言をいただきながら推進してまいりました。多くの皆様にご協力をいただき開催することができましたことに心より感謝申し上げます。また、メイン会場、サテライト会場、Zoom視聴を含め、参加して大会を支えていただいた全ての皆様にご心より感謝申し上げます。

最後になりましたが、この大会及び図書館教育のますますの充実と発展をお祈り申し上げます。開催地を代表しまして、お礼の挨拶とさせていただきます。ありがとうございました。

第72回長野県図書館大会(飯田下伊那大会)に参加者の声

県図書館協会小中学校図書館部会
副部長 長野市立寺尾小学校 林 明美

私は北信のサテライト会場である県立図書館にて、参加させていただきました。大会テーマ「一人ひとりによりそう図書館になろう～読書の意味を再考し、図書館の役割やあり方を考える～」について午前中のご講演、午後の分散会における討議を通して深く考えることができました。

新井紀子氏の「A I時代を生きるための力～読解力の重要性と読書の意義～」のご講演からは、子ども達の学力向上を目指す時「文章を読んで想像する力理解する力」の重要性について、児童の学びの姿と重ね合わせ理解することができました。A Iによるイノベーションは、数学の言葉によるところが大きいという事実を分かりやすく伝えるために「ロボットは東大に入れるか？」というプロジェクトを立ち上げられたということでした。「説明文には数学が書いてある。説明文の読解で読む力がついてくる。」という言葉は印象的で、説明文の文構造を理解し語彙力も高めていくことがリーディングスキルの育成につながっていくことが分かりました。A Iではなかなか対応できない仕事は、雪の屋根おろし、介護、保育士の仕事などであること、その理由は一期一会の人との関りから生まれる仕事であるというご指摘から一人ひとりによりそう図書館の役割、読書の意味を改めて問い直すことができました、A Iの壁は読解力をもって回り道をすることで越えられるというお話は、大変希望が持てました。

午後は「図書館が、知ること・学ぶことにどう応えられるか～ICTとベストミックスを図る図書館のあり方～」をテーマとした第2分科会に参加させていただきました。各小グループで現状把握、問題認識、解決の必要性を情報共有しました。個別最適な学びを保障するためには、調べたい児童生徒のニーズに十分応えていきたいが、図書資料の質的な量、時間的保障、児童生徒の学びたい中身の理解をずる機会の保障などの課題が把握されました。タブレット利用については、図書資料の信頼性とネットから得られる情報の信頼性に係る迷い、心配を子ども達自身が実感を伴って感じとっていった事例発表をお聞きし、早期に情報モラルと連携した調べ学習への具体的な取り組みが必要ではないかとグループ内で考え合うことができました。またICT活用では、調べたとことをアウトプット(表現・発信)することにおいて児童生徒の個別最適な学びの深化の可能性を強く感じました。分科会のメンバーの実践の中で4年生の国語の単元で、ポプラディアの百科事典の利用指導を通して「キーワード、定義文」などの重要性と意味を学習カードやクイズ形式など工夫して伝えながら調べ学習の土台を築いている取り組みから、図書館は、語彙力、読解力を高める最適の場所であるという認識を改めて感じる機会となりました。

最後になりましたが、大会運営に携わってこられた皆様、ご参会いただいた皆様に御礼申し上げて参加報告とさせていただきます。ありがとうございました。

10月29日(土)に、第72回長野県図書館大会が飯田市で開催されました。今回は『AI時代を生きるための力～読解力の重要性と読書の意義～』というテーマで新井紀子先生の講演をお聞きしました。コロナ禍のマスク生活、急速なデジタル化オンライン化の今、子どもたちの想像する力、語彙力、コミュニケーション能力の低下が心配されています。今回の講演の中で、科学的に解明されていない『読む』ということの重要性を改めて認識することができました。「デジタル化したものも上手に使いながら、リアルな本を読むことのよさも伝えていく」ということ。また、「一人ひとりに寄り添う仕事、レファレンスサービスはAIにはできない」という言葉が、司書として大変心に残り、励みになりました。

分科会①では、発表を聞いての感想や子どもたちの読書の様子、課題解決に向けて何ができるかグループで意見交換を行いました。生活環境の変化に伴い、読書時間を確保できない子どもたちや長い物語に挑戦できない子どもたちがいる。その中で段階的に出会ってほしい本を独自のブックリストにし、達成感のある読書へと導く企画。保護者や地域と連携した様々な取り組みの現状。担任の先生方との連携、探究学習で本を活用してもらうことの重要性。まず大人が読書を楽しむなど、どの話題も、今後学校図書館で働いていく際の刺激や、考えを深めるきっかけになるものばかりでした。生の言葉が飛び交う場で、資料を読むだけでは感じることでできない大切なものを受け取ることができ、とても有意義な時間となりました。タブレット導入など時代の流れと共に、図書館の在り方や、司書としてどこまで何をやればよいのかを迷い、見失うことがあります。それでも何か意味のあることをしたい。そのためにどうしたらよいのか？普段漠然と考えていることを、具体的に考え直すことができる場となりました。すべては、「本」と「人」とをつなぐこの仕事をしている私たちが諦めてはいけません！という結論に結びつくのです。

今後も、先生や子どもたちの生の声を聞きながら、学校図書館をつくり上げていくこと。子どもたちが豊かな読書経験を重ねることができるよう、図書館大会で得た学びを図書館運営につなげていきたいと思えます。最後に、今回の図書館大会に関わり、ご準備いただいた関係者の皆様に御礼申し上げます。

10月29日に行われた第72回図書館大会は『一人ひとりによりそう図書館になろう～読書の意味を再考し、図書館の役割やあり方を考える～』をテーマとし、飯田市をメイン会場に県下5か所のサテライト会場とオンラインで結び開催されました。私は今大会のテーマが自分の目指す司書像と重なっていたことや、以前より新井紀子先生の著書を拝読させていただいていたことからとても楽しみに大会当日を迎えました。

午前の基調講演はAI研究の第一人者でもある新井紀子先生による「読解力の重要性と読書の意義」についてのお話でした。AIと人間との比較を通して語られるたくさんの興味深いお話の中で私が最も心に残ったのは、「AIは答えが存在するものには対応できるが、人間の営みの中で起きる“一期一会”とも言える出来事には対応できない。人の心を理解できるのは人であり、それを支えるのが読解力そして読書である」というお話でした。新井先生のAI研究者ならではの実証的なお話は、私にとって非常に新鮮かつ説得力があり、時間を忘れて聞き入るほど学びの多い講演でした。

午後は『図書館が知ること・学ぶことにどう応えられるか～ICTとベストミックスを図る図書館のあり方～』をテーマとした第2分科会に参加させていただきました。小・中学校や公共図書館の事例発表をお聞きしたり、「利用者の知ること・学ぶことに応えていくにはどうしたらよいか」について意見交換したりしました。課題解決に向けて話し合うなかで、本とICTの良い部分を併用していくことの重要性を改めて学ぶとともに、図書館が必要だと思ってもらえるような取り組みを積極的に発信していくことが大切であるという考えをもつことができました。

本大会を通して今後の図書館運営に必要な多くのことを学ばせていただきました。開催に携わり、ご準備いただいた関係者の皆様に心よりお礼申し上げます。本当にありがとうございました。

地区学校図書館教育研究会から

東信地区

11月1日 上田市立本原小学校 上田市立真田中学校

「東信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

上小支部代表 上田市立神科小学校 堀内 絹予

1 研究テーマ 「自ら学び、考えや思いを深められる学校図書館のあり方」

2 公開授業・授業研究会

会場校	授業学級 授業者	教科・単元名	指導者
上田市立 本原小学校	6年1組 太田咲 教諭	特別活動「1年生となかよくなるう ～読み聞かせを通して～」	東信教育事務所 久保貴史 主任指導主事
上田市立 真田中学校	1年3組 翠川昂佑 講師	社会科 「中世の日本」	東信教育事務所 山浦 光雄 指導主事

3 講演 (講師体調不良により中止)

4 参加者人数 52名

5 まとめ

【小学校】読み聞かせでは、6年生がどうすれば1年生に楽しんでもらえるかを4つのグループに分かれて主体的に考え取り組んでいました。相手意識を持って本を選び、大型絵本やペーパーアート・声量・音響等を工夫しながら、読み聞かせができていました。「1年生を喜ばせたい」という深い思いの実践でしたが、「もう一回読んで!」という1年生の声が全てを語っている授業でした。



【中学校】社会科鎌倉時代の特徴を多面的、多角的にとらえることができるように自分がさらに追究したいことをスライドにまとめていく授業でした。製作するにあたり、個々の興味ある問題から本を選択し、読んでまとめて発表し合い、学びを深めていく一連の流れがはっきりしていて生徒たちも大変よく取り組んでいる姿がありました。授業の途中でも選んできた本に立ち返り確認している姿、手で本を開き、もう一方の手でパソコンを打つ姿、本が近くにあり自分のよりどころとなっている場面が見受けられて考えが深まっていました。自分の追究したいことが書いてある確かな情報のある本を見つけることも一つの能力であると感じました。

生徒が必要な本を見つけ授業で考えを深めていくことができるように、教科担任と学校司書との連携がさらに進むことで、教科書を越えた発展的な深い学びになっていく可能性が本にはあることを授業研究会で学ばせていただきました。

生徒が必要な本を見つけ授業で考えを深めていくことができるように、教科担任と学校司書との連携がさらに進むことで、教科書を越えた発展的な深い学びになっていく可能性が本にはあることを授業研究会で学ばせていただきました。



令和4年度東信地区図書館教育研究会参加報告

上田市立神科小学校 高瀬 亜弥

今回授業を公開していただいた真田中学校は、私の母校です。今の新しい校舎にもどこか面影が残っていて、懐かしく、嬉しい気持ちで研究会に参加させていただきました。廊下を歩いていると、1年生の生徒たちと、和気あいあいと楽しそうに会話している先生がいました。それが、授業者の緑川先生です。生徒たちの輪の中に自然に入れるその雰囲気が自然体で素敵でした。

授業は、本とChromebookと友だちとの会話を通して、自分のスライドを練り直していく場面。印象的だったのは、Chromebookを班の皆でのぞき込んでいる風景と、発表した生徒に周りの子たちが拍手していたシーンです。本で調べることも、ネットで調べてPCでまとめることも、今の中学生なら一人だってできるのかもしれませんが、でも、そこに友だちや先生がいることで、さらに会話があることで、学びはより深まったり広がったりするのだと思いました。

インターネットで手軽に情報が得られる時代。電子書籍も増えていて、とても便利になりました。でも、私は図書館に行って本を探すのが好きです。研究会で山浦指導主事が「本を探す時間の幸福」とおっしゃっていました。我が子やクラスの児童が、図書館で本を選ぶ楽しそうな姿を見ていると、まさに「幸福」の時間だと感じます。「これ面白かったよ。」「先生、このシリーズまだありますか。」人と人の会話も自然と生まれます。手にとって重さを感じ、表紙を開くときのドキドキ感。図書館にいらっしやる司書の方の温かさ。図書館にしかないものも、たくさんあるということを変えて学びました。

これから社会に出ていく子どもたちには、インターネットのよさも、本のよさも、人や友だちのよさも、しっかり知っている大人になってほしいです。それには、私たち教員も、「新しいもの」「古いもの」というこだわりや抵抗をなくし、頭も心も柔らかくしていく必要があると感じました。

上田市立丸子北小学校 滝澤 幸嗣

本年度の東信地区図書館教育大会は、「自ら学び、考えや思いを深められる学校図書館のあり方」を研究テーマにして、本原小学校と真田中学校の2会場に分かれ行われました。私は、本原小学校の会場に参加させていただきました。

6年生の学級活動の授業を拝見しました。1年生が喜んでくれるような読み聞かせをしたいという願いを持ち、5つのグループに分かれ、1年生に読み聞かせをする活動でした。1年生に読み聞かせをする前に、グループごとに、気持ち良くきいてもらうために、直前の練習でも課題を確認して、本番の読み聞かせに入っていました。6年生が自分の役割分担を真剣に取り組んで、生き生きと取り組んでいました。「1年生を喜ばせたい」という共通の願いのもと、各グループとも支え合う姿がいくつも見られました。読み聞かせが終わると、1年生が6年生にたくさんの拍手をして、お礼を返していたことが印象的でした。読み聞かせの終了後に、その話に興味を持った1年生が準備物(指人形やペープサートなど)に触りたいと言ったので、6年生が触らせてあげるなど、優しく対応していました。感染予防の点から交流活動に制限がある中で、6年生が1年生とより良い関係を築いていることを授業参観から伺うことができました。6年生の読み聞かせ会をやり切った充実感がただよう表情と、1年生が読み聞かせをしてもらい満足した表情を、ともに温かい雰囲気の中で見ることができました。

このような実践の積み重ねで、本が好きになり、心豊かな子どもたちに育てていることにつながっているのだと思いました。今回の授業参観を生かし、これからの自分の交流活動のあり方を見直していきたいと思います。ありがとうございました。





10月14日 生坂村立生坂小学校 生坂村立生坂中学校
「中信地区 学校図書館教育研究大会」を終えて

塩筑支部代表 生坂村立生坂中学校 青森 隆俊

1 研究テーマ 「自ら学び、豊かな心を育てる図書館教育」

2 公開授業 授業研究会

会場校	授業学年・授業者	教科・単元名	指導者
生坂小学校	5年 柳澤 志濃 教諭	国語・特別活動 「生坂小図書館 パワーアップ大作戦」	長野県総合教育センター 武田 昌之 専門主事
生坂中学校	1年 上條 示雄 教諭	国語 「『この本』の価値を再発見」	中信教育事務所 三石 啓介 指導主事

3 講演

演題： 「GIGAスクール時代の学校図書館
～電子図書館の取組と連携事例のご紹介～」

講師： 森 いづみ 氏(県立長野図書館 館長)

講師のご都合で当日の講演が中止となったが、後日、オンラインで講演動画を配信した。「GIGA スクール構想と学校図書館に関する動向」、「長野県内の公共図書館による電子図書館の取組」、「地域で取り組む図書館サービスの可能性」という視点から、学校図書館、公立図書館が連携し、デジタル化されていく図書館の利便性や有効性を活かしながら、子どもや地域の方の生涯の学びを支えていく大切さを教えていただいた。講演動画は、森館長のご厚意で、参加者だけでなく中信地区全校に配信することができた。

4 参加人数 41名

5 まとめ

【小学校】

もともと本が好きな5年生児童たちは、より多くの友だちに本の楽しさを知ってもらい、図書館をより魅力的な場所にしたいという願いをもって、それを具現化するためのアイデアを考える学習を行った。本学習の特徴は、国語科の「話し合い」単元と、特別活動「図書館パワーアップ大作戦」とを、教科横断的に展開した点である。子どもたちは課題を自分事としてとらえ、思考ツールである「クラゲチャート」を活用して、自分の意見と友だちの意見を繋ぎ合いながら、考えを広げていくことができた。話し合いによって決定したアイデアは特活の時間を使って形にし、子どもたちのアイデアが反映された図書館はより活気のあるものとなった。「願いが具現化される経験」は児童にとって大変有意義な学習となり、その後の様々な活動・学習面で活かされている。



【中学校】

16冊の「さるかにがっせん」の絵本の中から3冊を選び、グループに分かれて読み比べた。各社の絵本のテーマを一言で表すと「友情」「正義」「欲望」のうちそれぞれどれであるかを考え、「そう言える理由」と「言えない理由」を書き出して話し合った。叙述を根拠に自分の考えを説明したり、仲間の考えを聞いたりする中で、絵本によって同じ物語でも内容が違い、内容の違いによってテーマや主題、作者のねらいなども異なることに気づき、読書への興味を深めていった。



中信地区学校図書館教育研究会参加報告

麻績村立筑北中学校 倉科 黎

今年度、中信地区学校図書館教育研究会に参加させていただきました。指導案を拝見して、「さるかに合戦」を題材にして「正義」「友情」「欲望」という言葉に迫っていく授業であると知ったときは、思わずワクワクしました。

実際に授業を見させていただいて、子どもの絵本に対する興味の深さを改めて感じました。上條先生から各班に絵本が手渡されると、一つの絵本をみんなで囲んだり、仲間の読み聞かせに熱心に耳を傾けたりしている姿がありました。「早く読んでみたい」という子どもの気持ちがそんな姿として表れており、素敵な光景を見ることが出来ました。

また、子どもからは「そもそも、正義って何だろう」という発言もありました。「さるかに合戦」を読んでいく中で、自分の中にある言葉を見つめ直し、主体的に探求していく様子を見ることが出来ました。

授業後の研究会では、一緒に参観された先生方から、絵本の持つ魅力や、昔話を知らない小中学生は少なくないというお話を伺うことができました。私が知らないことも多く、大変勉強させていただきました。

コロナ禍で、多くの先生方のご尽力があって対面の研究会が開催されたことと存じます。感謝いたします。ありがとうございました。

松本市立大野川小学校 奥原 由里

今年度は、生坂小学校と生坂中学校の2校が授業公開をしてくださいました。私は、生坂小学校5年生の授業を拝見させていただきました。生坂小学校を訪れることは、今回が初めてでした。全校65人と小規模ながらも、子どもたちの伸び伸びとした活動の様子が感じられる素敵な学校です。

今回、5年生の皆さんは、自分たちや他学年の図書館利用や読書生活を振り返る中で、日常的に一人でもみんなでも本を楽しむにはどうすればよいかという問いを持ち、「生坂小図書館パワーアップ大作戦」を考え実行するという学習を進めていました。そして、本時は、考えた作戦を整理し、皆で考えを広げる話し合いをする場面でした。本校でも同様な課題があり、主に司書の先生が様々な工夫をして下さっています。しかし、今回は子どもたちが図書館をパワーアップしたいと願って作戦を立て実行するという事で、とても興味深い内容でした。子どもたちは、自分の考えを付箋に書き込み、クラゲチャートに自分の作戦とその「よさ」をまとめていきました。その後のグループごとの話し合い（伝え合い）では、根拠に基づいて「よさ」を伝えあい、共感し合う姿がありました。自分がよいと思ったことを友だちが認めてくれたことで自信が生まれたのではないかと感じました。この後の活動がどうなるのか知りたくなりました。きっと、大きな成果が生まれたのではないのでしょうか。今回、子どもたち自身で課題を持ち、考え、よりよくしていくということが、図書館利用者の増加や読書活動の充実をもたらす可能性を大いに感じました。

授業公開をしてくださった生坂小学校、生坂中学校の皆さんに、改めて感謝申し上げます。

「北信地区 学校図書館教育研究会を終えて」

長水支部代表 長野市立綿内小学校 加藤 善彦

1 研究テーマ

「ICT機器の活用を取り入れながら学習を進める、『学習センター』としての図書館の在り方」

2 公開授業・授業研究会

- (1) 長野市立松代中学校 1年国語 授業者 吉澤 英樹 教諭
「魅力的な伝え方をしよう～ビブリオバトル入門～」
- (2) 長野市立綿内小学校 5年総合 授業者 平出 彩紗子 教諭
「お米についての学びをまとめていこう」

3 講演

- (1) 会場 長野市立綿内小学校体育館
- (2) 講師 真珠 まりこ 先生（絵本作家）
- (3) 演題 「もったいないばあさんと考えよう世界のこと」

4 参加者人数

松代中学校公開授業・授業研究会 19名（会場校職員参観を除く）
綿内小学校公開授業・授業研究会 24名（会場校職員参観を除く）
講演会 48名

5 まとめ

- (1) 研究テーマを受け、松代中学校、綿内小学校共に図書館の本とタブレットを活用した授業を行いました。松代中学校「国語」では前時行ったビブリオバトルの録画を見返す場面で、観点を定めて見返すことで、より相手に伝わる伝え方についてグループで考え合いました。綿内小学校「総合」では、自分たちの米づくりについてグループごとの表現方法でまとめる場面で、図書館の本やタブレット（インターネット）を活用して、より相手に伝わりやすくなるように考え合いました。どちらの会場でも、授業公開と研究会を通じて、本とデジタルの良さを生かしながら児童・生徒が主体的に学ぶ授業について、多くの示唆を得ることができました。
- (2) 講演会では著名な絵本作家 真珠まりこ先生を講師にお話を伺いました。絵本の主人公である「もったいないばあさん」の姿を通して、「みんなが幸せに暮らせるために分け合う気持ちが大事」「一つ一つの命が大切なものでありつながっている」など、心に響くお話を伺いました。自分の住む町から世界へとつながる講演で、1時間半という時間があっという間に過ぎていきました。
- (3) 今年度は社会状況を鑑み、長水支部のみの案内とさせていただきました。（次年度開催支部の飯水から2名参加）当日まで開催が危ぶまれましたが、開催することができました。そのため参加者は少なくなりましたが、充実した会となりました。
- (4) 県立図書館より4名の方に、小中の授業から講演会まで参加していただきました。学校での図書館を活用した授業の様子を参観していただくことで、貴重な情報交換の場となりました。



松代中公開授業



綿内小公開授業



真珠先生講演会

北信地区学校図書館教育研究大会参加報告

県立長野図書館司書 千川優

この度長野県図書館協会小中学校部会から地域の公共図書館にもお声がけいただき、今まで小中学校の授業研究会という機会に縁のなかった県立図書館も、これからの全県的な学校との連携を考えるうえで、先生方の現場でのご実践を知らなければ始まらない。と大勢で参加させていただくこととなりました。

中学校の国語では、ビブリオバトルという読書を起点とした意見の表出をテーマとし、コミュニケーションの技術を検討し深めるためにクロムブックを活用する授業、小学校の総合的な学習では、年間を通して学んだことを、下級生を対象にわかりやすく工夫して伝えるためにアプローチを工夫する授業で楽しそうに取り組む姿を拝見しました。それぞれに学校図書館が関わる役割は様々でしたが、授業をされる先生方と学校図書館司書の方々が、授業の計画から打ち合わせをされ準備を整えられている様子うかがえました。

本でなければ、インターネットでなければ、ということではなく、あらゆる学びのチャンネルから情報を提供し、校内で活用してもらえようようにすることが学校図書館の役割の中で重要性を増しているように感じます。どんな情報資源も活用できる力を身につけるために、学びの方法についても学校図書館が積極的に関わり、情報リテラシーも含めて指導される先生の役に立てるようにフレキシブルに動くことが重要だと感じました。

指導主事の小川先生のお話のなかで、国の次期「子どもの読書活動推進計画」にも大きく学校図書館の3つの機能が取り上げられ、デジタル社会に対応した読書・学びの環境整備が現場でも本格化していることを知りました。公共図書館も学校図書館の司書の皆さんと共に考え、学校の教育活動に役に立てる体制と環境を整えていかなければならないと念じています。今後さらにこのような場において先生方の現場でのお声を聴き、学ばせていただけましたらと思います。ありがとうございました。

綿内小学校 学校司書 塚田 絹子

今年度から綿内小学校図書館の勤務となり、学習センターとしてどのような準備が必要か考えました。まず、どんな資料がどれだけあるのかを知るため、資料の整理を開始。登録の見直しと訂正、分類サインの色と分類ラベルの色を同じにして張り替える、見出しプレートを作る、絵本のカラー○シールを細かく分けて張り直す、図書館地図・分類表の作成など、みんなが必要な資料を探しやすく戻しやすい書架になるよう作業を続けています。

また、学習センターとして必要な資料を整えるために「リクエストカード」を作り、先生方に書いていただくようにしました。資料とリストをお渡しし、学習終了後、リストに良かった資料などをチェックして戻していただきます。リクエストカードとチェックリストから不足している資料の把握、どんな時期に、どんな資料が必要かも把握でき、今後の資料購入の際にも、無駄なく必要な資料を準備できると考えました。勤務時間的に先生方とのコミュニケーションをとることが難しいという課題も、少しくリアできているように思います。

5年生が、長い時間をかけて「田んぼ」について学んできた発見や喜びを、誰かに伝えていこうという素晴らしい学習に、図書館でどんなお手伝いができるか考えたとき、「田んぼ」について知ることは、SDGsの「陸の豊かさを守ろう」や「住み続けられるまちづくり」につながることを伝えていけたらと思いました。授業公開を機にSDGsの表づくりSDGsコーナーを充実できたことも良かったです。



今回の研究会で、子どもたちがタブレットも本も使いこなしていくために、今はどちらもどんどん使って経験を積むことが大切というお話をうかがいました。図書館が、学習センターとして、また、本の良さを知る大切な場所となるようこれからもいい準備をしていきます。

部会だよりは長野県図書館協会ホームページでもご覧いただけます。

長野県図書館協会 小中学校図書館部会だより 第162号

発行日 令和4年12月23日

発行者 長野市若里1-1-4 県立長野図書館内

長野県図書館協会小中学校図書館部会（代表 川本 修一）